

石巻湊の礎と漁港の賑わいを今に伝える
「歴史と漁港ルート」

- 安全に快適に水辺を緑を感じながら散歩できるプロムナード
- 水辺そばの道路は現在のまま通れるようにする(生活道路)
- プロムナードから各ポイントへ行き易いように工夫(階段やスロープ)
- 途中々休憩し、水辺の景色を眺められるよう配慮

水辺の現況

- 漁港跡地として現在も桟橋が残っており、杭が老朽化して危険なことから県にて撤去作業を進めている。
- 平成22年に国交省にて緊急高潮対策を実施
- 荷捌き場の背後は市道があり生活道路として活用されている。

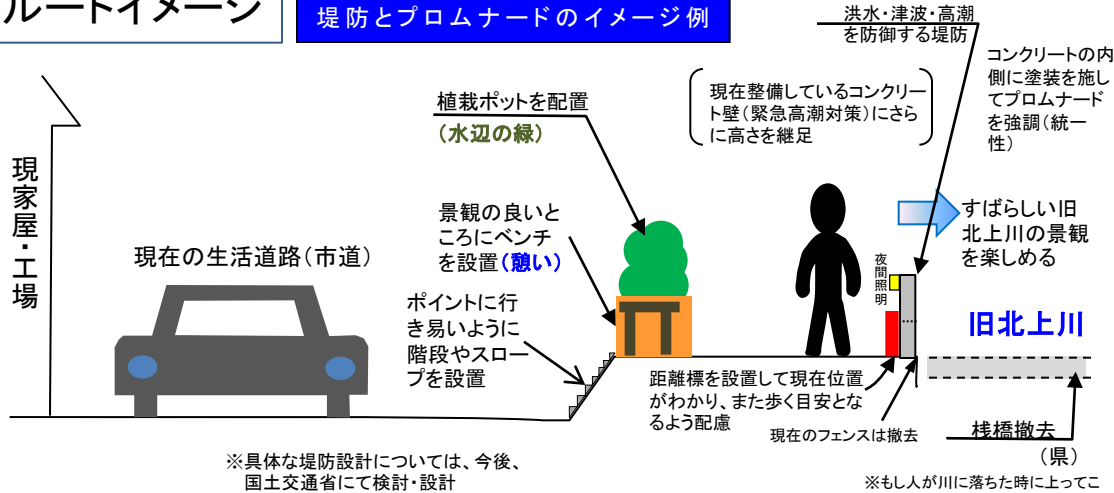


利活用方策

- 湊地区は、石巻湊としての歴史や昭和の漁港があった時代の賑わい、さらに現在も続く造船業などを探訪する新たな散歩ルート(見どころ多々)。
- このプロムナードは点在する史跡を探訪する際の幹線ルートとしての役割(⇒プロムナードから各ポイントへの行き易さを確保)。
水辺の史蹟めぐり探訪のイメージ

ルートイメージ

堤防とプロムナードのイメージ例



- 湊・川口地区には造船業を営んでいるところがあり、“造船のまち石巻”を感じる貴重な場所である。そのため、プロムナードとして拠点の利活用として、造船の歴史や現在の造船の姿を学べるポイントとしての機能が望まれる。また、造船のPRは海事産業の次世代育成としての効果も期待。



川口町の造船業

実現に向けて

- 河川管理・整備を担当する国土交通省へ、堤防整備と併せて水辺と親しむことができる水辺環境を提言。
- 北上川水系河川整備計画(現在策定中)にもとづき実施される河川整備・管理に際して、堤防の設計段階からの地元への説明と調整を要望(堤防設計は国土交通省にて実施)。
- 堤防整備と連携して内水対策や環境整備などの関連事業を進める。
- 地元で問題となっている不法係留船の撤去は、船舶所有者に継続的に撤去を訴えていくとともに、収容施設の整備要望(県へ)と新たなマリーナ整備を検討。
- 快適な散歩環境となるように臭いの解消などの環境改善を検討・推進(民間企業との連携も検討)。
- 水辺利用が推進されるよう、利活用方策に掲げた項目の中から実施可能なものから推進を図る。
- 内海橋から直接プロムナードへ行けるように検討(沿川住民との調整必要)

- 石巻の既存の散歩路や堤防上では散歩やウォーキングを楽しんでいる方を多く見かけます。そのため、新たなプロムナードには散歩時の目安となる距離標を設置(自分の現在位置がわかる工夫)。
- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会単位等で水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や植栽管理(植栽ポット)を推進。
- 中瀬から湊地区を見たときの景観にも配慮。



距離標(イメージ)

船が停泊する石巻の原風景が楽しめる
「石巻観光マリーナ」

拠点
方向性

- 旧北上川に不法係留するプレジャーボートやヨットが収容できるマリーナを計画(不法係留する漁船については漁港に収容するよう働きかけ)
- プロムナードと連携する拠点として、マリーナと併設して人々が集い憩える拠点形成を目指す

水辺の現況

- 拠点予定地は、昔、造船所があったところで現在は荒地となっている(約4.8ha)。
- 予定地からは、日和大橋が望むことができ、また親水護岸もあり、水に親しめる良好なポイントとなっている。



拠点予定地から日和大橋を望む
(素敵な水辺のロケーション)



予定地は現在荒野となっている。
(ヤマニシ造船所跡地)



予定地下流側には水辺に親しめる
階段状の護岸がある(親水護岸)。



拠点イメージ

- 旧北上川に不法係留しているプレジャーボートを収容するマリーナとしての整備を検討(漁船については漁港区域へ)。
- 既に整備されている親水護岸を生かして、水辺に親しみ憩える空間を併設(憩いの空間として親水護岸の背後地にベンチや東屋、植栽などの整備をイメージ)。
- 親水護岸から、マリーナに停泊する船舶や日和大橋や河口などを眺めたりすることができるなどの観光ポイントとしても楽しめるポイント。
- 湊地区の地域活性化策として、プロムナードや拠点と連携して石巻の特産品の販売や食事できる施設(川の駅「ひたかみ」(仮称))を提言(平面的な広がり期待)

マリーナでの船舶停泊のイメージ



(仮称)川の駅「ひたかみ」



水辺に設置

地元のおいしい魚介を使った食事やお土産、直産を行う「川の駅」イメージ。湊地区の活性化も期待。



一般的なマリーナのイメージ

親水空間



▲ 対岸から拠点予定地を眺める

整備実現及び利活用の推進に向けて

(整備実現に向けて)

- 拠点の実現に向けて、今後、官民等が連携して拠点形成のための勉強会を立ち上げて、どのような方式により整備していくべきかを検討。
- 拠点形成と並行して、湊地区の活性化策を地域提案がでてくることを期待(地域の創意と工夫)

(利活用の推進に向けて)

- 整備後の活用に向けては、観光客や子どもたちによる水辺利用など、施設内容と連携した取り組みや広報を推進。
- プロムナードの推進としてプロムナード全体図及び現在位置がわかる案内板を設置。



階段護岸で写生する子どもたち
(階段護岸の利用イメージ)

- 湊・川口地区には造船業を営んでいるところがあり、「造船のまち石巻」を感じる貴重な場所である。そのため、プロムナードそして拠点の利活用として、造船の歴史や現在の造船の姿を学べるポイントとしての機能が望まれる。また、造船のPRIは海産産業の次世代育成としての効果も期待。

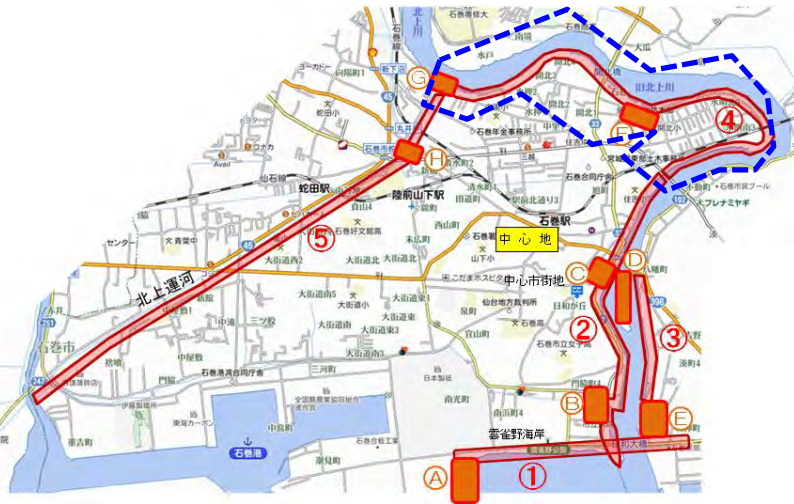


▲川口町の造船業

- 臨港道路から観光マリーナへのアクセス路を検討

7. 旧北上川右岸上流のルート、拠点、ポイント

旧北上川右岸上流の位置



7-1 旧北上川右岸上流のポイント

- 既に堤防が整備され、堤防上の道は、通勤通学、サイクリング、ウォーキングなど様々な活用されている。
- 堤防上からは雄大な水辺の風景を望むことができ、良いロケーション。
- 大橋地区の広域消防署があるところでは毎年石巻川開き祭りの花火大会が開催される場所であり、毎年多くの観客が訪れている。
- 河川敷があり、釣り人や子供たちの遊び場として利用が図られている。

堤防から見る景観



大橋地区の状況



様々な利用されている堤防上の道



川開き花火大会で利用されている階段護岸



▲日本一の石巻川開き祭りの花火大会



河川敷の利活用



旧北上川の風と風景を楽しむ
「川の風を楽しむルート」

ルート方向性

- 既に堤防があり堤防上には散策路(サイクリングロード)が整備済(新たな整備は行わない)
- プロムナードの中で唯一、川とふれあえる河川敷があり、河川敷を使ったイベントなどの利活用が期待。

水辺の現況

- 石巻大橋から石井閘門までは堤防が整備され、堤防上の通路が散策路としてサイクリングや通勤通学、散歩、生活道路として利活用されており、既にプロムナードとなっている(新たな整備は行わず、利活用を推進)。
- 特に、このルートから見る川は、水面の広がりを感じる素晴らしい風景を楽しむことができる(⇒途中で休憩するためのベンチ設置を検討)。
- 河川敷では、子供たちが遊んでいたり釣りを楽しんでいる人も見かけられ、レジャーとしての利活用が進んでいる。



旧北上川堤防上の散策路



サイクリングでの水辺散策



堤防上は安全な通学路



散策路は生活道路としても利用



河川敷は子供たちの遊び場



釣りを楽しんでいる人



ウォーキングや散歩を楽しむ人も多い



散策路からは鉄橋を通る電車(JR石巻線)が眺められる。昔と変わらぬ風景。



散策路からは雄大な旧北上川を望められる。対岸は真野川水門。

利活用方策

- 石巻の既存の散策路や堤防上では散歩やウォーキングを楽しんでいる方を多く見かけます。そのため、プロムナード(現堤防上の道)には散策時の目安となる距離標等を設置(自分の現在位置がわかる工夫)。
- 散策路の維持管理のため、町内会などにより水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や堤防の植栽管理を推進。



距離標のイメージ



河川清掃イメージ

- 河川敷の利活用が推進されるよう、水辺をゆっくり眺められるベンチの増設やPRを推進。また川の生物・植物を調べる子どもを対象とした学習会の開催も検討。



ゆったり水辺を眺められる水辺のベンチのイメージ



河川敷でのイベントイメージ

- 旧北上川河畔のプロムナードルートで唯一、河川敷がある当ルートの特性を活かし、河川敷での更なる利活用が推進されるよう、公園的な整備を検討。



北上川鉄橋付近の河川敷。今後の利活用が期待される

拠点

F

花火と水辺のレジャーを楽しむ
「旧北上川水辺広場」

拠点方向性

- 市街地を流れる旧北上川沿いとして、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントとして拠点を形成。また洪水時は防災拠点としての機能も併せる。
- 拠点では、水辺を望み子どもたちが思いっきり走り回れる原っぱとして、子どもたちの様々な活動や川開き時には花火大会会場としても機能。

水辺の現況

- 堤防の河川側は、階段が整備されており、8月1日の川開き祭りの花火大会時には、会場として多くの人が集まっている(有料の棧敷)。また平時の河川敷では、釣りや子供たちがキャッチボールなどで遊んでいる。
- 堤防の住宅側は、約6haもの広大な用地があり、川開き花火大会の時は花火見物客で賑わっている。



堤防の住宅側の状況(公共用地が約6ha)



堤防の川側。階段が整備され、河川をゆっくり見ることができる



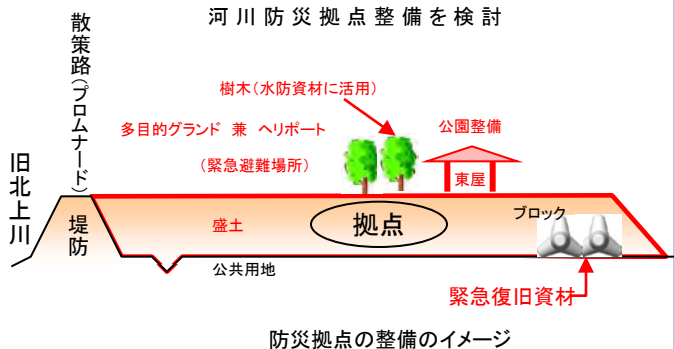
釣りや子供たちの遊び場となっている河川敷



毎年、旧北上川河畔で開催される石巻川開きの花火大会

拠点イメージ

- 市街地を流れる旧北上川沿いには、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントが少ないため、新たな拠点を形成。
- 拠点のあり方としては、多目的グラウンド(芝生広場)として子供たちが遊び回れるような空間をイメージ。また、大きな広場であることは、花火大会時の観覧場としての利用も可能(平時の利用)
- 洪水等の緊急時には、水害対応の指揮や地域住民の避難場所などで活用をイメージ。
- 石巻大橋から石井閘門までの散策路(堤防上)では木陰が無いいため、拠点に植樹して木陰を形成(樹木は水害時に水防対策として活用できる樹木を選定=水防資材)
- 人が集まるための駐車場も併設。



防災拠点の整備のイメージ

▼ 大規模災害発生時と平常時における防災拠点の機能

洪水等の緊急時には

- 水防情報の受信基地
- 土砂、ブロック等備蓄した資材による緊急復旧の拠点
- 地域住民の緊急避難場所
- 水防司令室
- 水防団待機所
- ヘリポートによる緊急輸送

平常時には

- スポーツ、レクリエーションの場
- 河川等に関する情報発信の場
- 地域の方々のコミュニティ施設
- 地域の野外活動の場
- 各種イベントの開催



整備実現及び利活用の推進に向けて

(整備実現に向けて)

- 拠点の設計や整備については、同地内に建設が予定されている新市民会館との調整が必要。

(利活用の推進に向けて[拠点整備後])

- 多目的グラウンド(芝生広場)では、スケートボードのやゲートボール場として活用するなど多様な年齢層に水辺での活動に利用。



スケートボードのパーチ

多目的広場の利活用イメージ

ゲートボール

- プロムナードの推進としてプロムナード全体図及び現在位置がわかる案内板やサインを設置。



看板やサインのイメージ